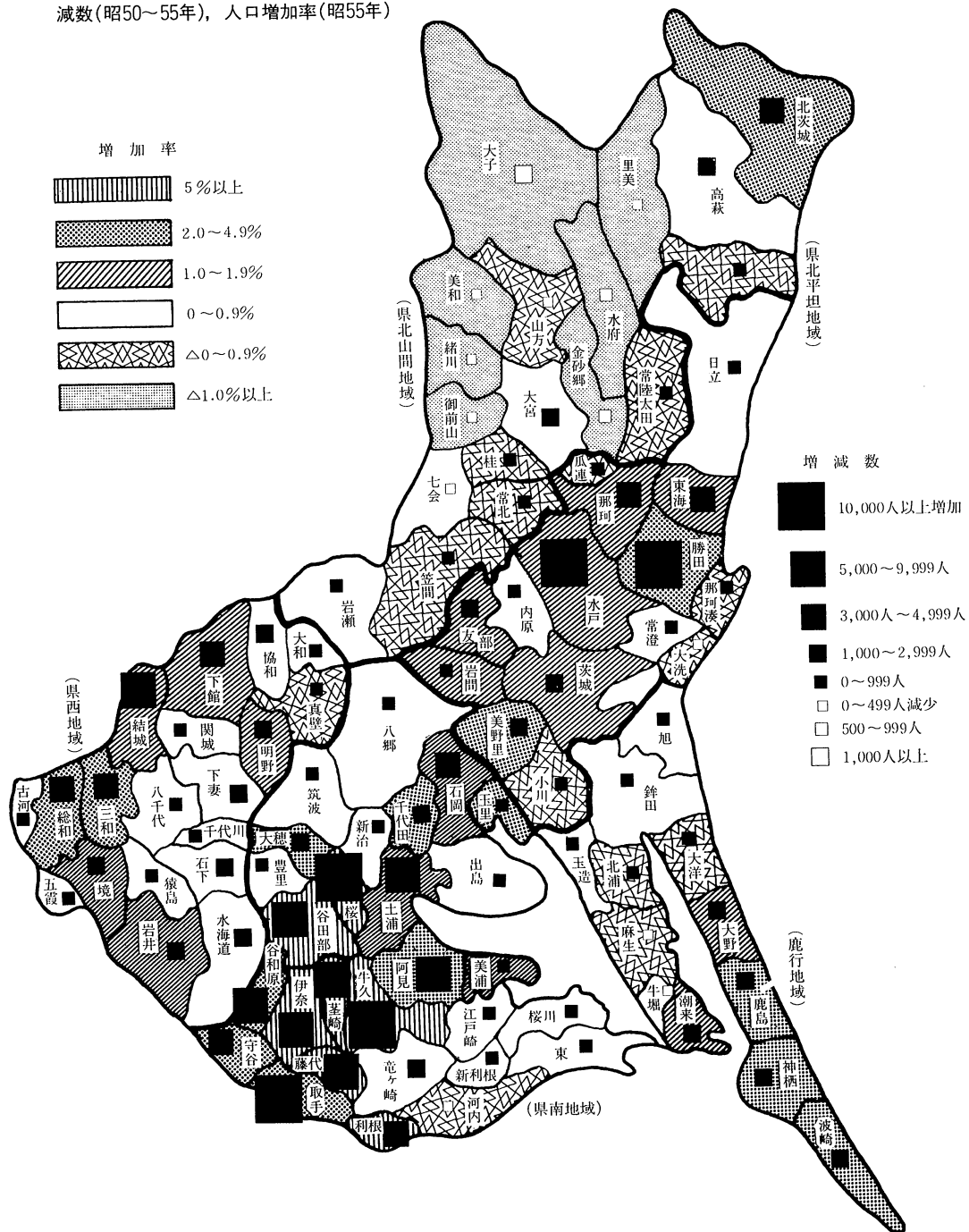


高水準を保つ県南人口増

図-1 昭和55年国勢調査による市町村別人口増減数(昭50~55年), 人口増加率(昭55年)



昭55年茨城県の人口(上)

1. 人口

(1) 総人口の推移 ~過去60年間に120万人増加~

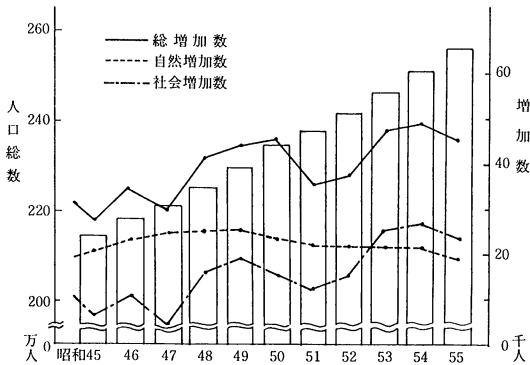
昭和55年10月1日国勢調査による茨城県の総人口は2,557,903人である。

大正9年の第1回国勢調査での本県人口は1,350,400人であり、それから60年間に倍率で1.9倍、約120万人増えている。

人口の推移をみると、第1回国勢調査が行われた大正9年以降増え続けたが、昭和30~35年にかけて1時減少したもののその後再び増加に転じて、昭和45~55年の年平均人口増加率は1.8%で、同期の全国平均1.1%を0.7ポイント上回る。昭和56年1月1日現在における本県推計人口は2,566,077人となった。

なお本県人口の全国人口に占める割合は2.2%で、全国都道府県中12番目(前回14番目)に位置している。また面積は6,089平方キロメートルで24位であるが、人口密度は1平方キロメートル当り420人で全国平均人口密度314人をかなり上回り、全国13位(前回13位)となっている。

図一2 人口と増加数の推移



(2) 昭和55年の人口

ア 人口の概要 ~増加数前年に比べ低下~

昭和56年1月1日現在の本県人口は2,566,077人(男1,276,311人, 女1,289,766人)となり、55年1年間における人口増加は42,869人、増加率は1.8%で、前年の増加率(2.0%)より0.2ポイント低下している。

55年中の人口増加は1日当り117人である。

増加の内訳をみると、自然増加18,976人(増加率0.8%)、社会増加23,703人(増加率0.9%)であり、社会増加が55.3%(前年55.6%)を占め、53年以来社会増加が自然増加を上回っている。なお増加数の対前年比では自然動態で2,382人、社会動態で2,993人の減少となった。

市町村別に人口増加数をみると、増加したのは15市54

町村で、減少は3市20町村であった。増加市町村では桜村の3,337人(前年6,263人)が最も多く、以下牛久町3,313人(前年3,097人)、取手市3,213人(前年3,756人)、水戸市2,844人(前年3,756人)、利根町2,685人(前年1,738人)の順となり、一方減少した市町村は太子町353人(前年251人)、笠間市162人(前年62人増)、大洗町149人(前年8人)、金砂郷村145人(前年114人)、水府村122人(前年277人)の順となっている。

なお外国人は前年に比べて190人増えて総数5,145人となっている。

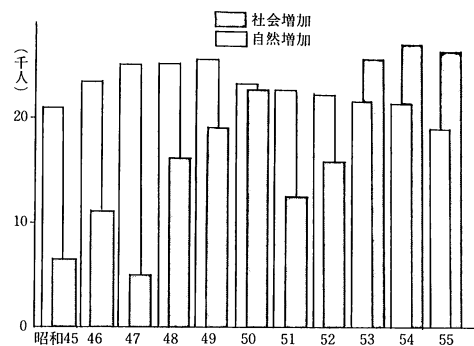
[注] 55年中の人口増加数は、毎月の移動報告に基づく集計結果では42,869人であるが、55年10月1日の国勢調査結果に基づいて修正すると45,337人となる。

表一1 人口の推移

年次	総人口	増加数	増加率
51	2,387,470人	35,273人	1.5%
52	2,425,327	37,857	1.6
53	2,472,359	47,632	1.9
54	2,520,740	48,381	2.0
55	2,566,077	45,337	1.8

* 各年12月末日現在推計人口

図一3 年次別人口の推移



イ 地域別人口 ~高水準を保つ県南人口増~

本県を5地域に分けた人口分布を昭和56年1月1日現在でみると、県北平坦が778,615人で本県総人口の30.3%を占め、次いで県南723,193人(28.2%)、県西520,173人(20.3%)、県北山間305,126人(11.9%)、鹿行238,970人(9.3%)の順となっている。

55年中の人口増加を地域別にみると、県南が26,456人、増加率3.8%(前年31,225人, 4.7%)、県北平坦7,308人、増加率0.9%(前年9,063人, 1.2%)、県西5,791人、増加率1.1%(前年5,781人, 1.1%)、鹿行3,033人、増加率

表一 地域別人口の推移

(単位:人,%)

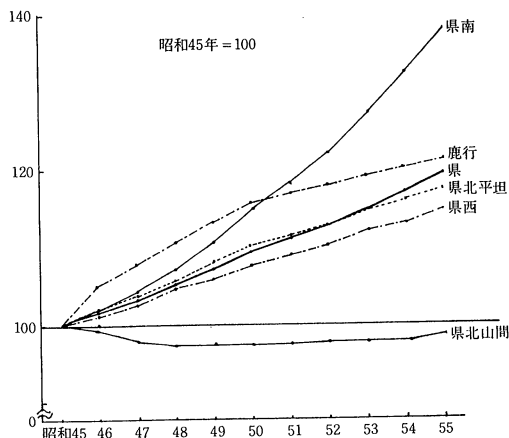
地域		年次	51	52	53	54	55
県	総数		2,387,470	2,425,327	2,472,359	2,520,740	2,566,077
	人口分布		100	100	100	100	100
	増加率		1.5	1.6	1.9	2.0	1.8
県北平坦	総数		740,456	750,950	761,588	770,804	778,615
	人口分布		31.0	30.9	30.8	30.6	30.3
	増加率		1.3	1.4	1.4	1.0	0.9
県北山間	総数		302,098	302,315	302,395	302,461	305,126
	人口分布		12.6	12.5	12.2	12.0	11.9
	増加率		0.2	0.1	0.0	0.0	0.1
鹿行	総数		230,578	232,548	234,778	236,700	238,970
	人口分布		9.7	9.6	9.5	9.4	9.3
	増加率		1.0	0.8	1.0	0.8	1.3
県南	総数		617,980	637,210	664,632	695,983	723,193
	人口分布		25.9	26.3	26.9	27.6	28.2
	増加率		2.7	3.0	4.2	4.7	3.8
県西	総数		496,358	502,304	508,966	514,792	520,173
	人口分布		20.8	20.7	20.6	20.4	20.3
	増加率		1.2	1.2	1.3	1.1	1.1

※ 各年12月末日現在推計人口

1.3%(前年1,908人,0.8%),県北山間281人,増加率0.1%(前年77人,0.0%)となり,前年大幅に伸びた県南は対前年比4,764人,増加率で0.9ポイントの低下を示しているが依然として高水準を保つ人口増となっている。

これを自然,社会動態別にみると,自然増では県北平坦の増加率0.9%(6,569人),鹿行0.9%(2,154人),県南0.8%(5,493人),県西0.7%(3,825人),県北山間0.3%(935人)となり,また社会増では県南3.0%(20,726人)と

図一 地域別人口の推移



県全体の社会増加数23,703人に対し87.4%を占めているが,他の地域は県西0.4%(1,942人),鹿行0.4%(886人),県北平坦0.1%(792人)となり,県北山間は0.1%(643人)の減少となっている。

ウ 市郡別人口 ~市部は自然増加,郡部は社会増加が高い~市部,郡部別の人口をみると,市部人口は1,249,736人,郡部の人口は1,316,341人となり,本県総人口に占める割合は市部で48.7%,郡部で51.3%で,郡部の割合がさらに高くなり,本県の特色といえる。

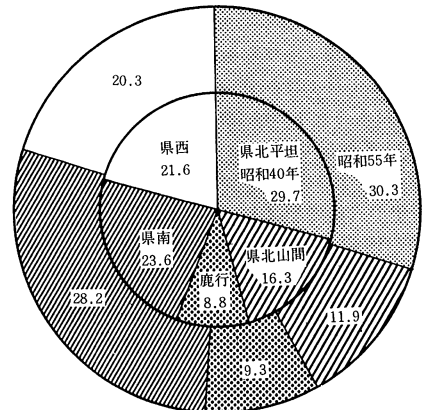
これを前年同期と比較すると,増加は15市12郡で,減少は3市1郡となり,市部で15,161人(増加率1.2%),郡部で27,704人(増加率2.1%)増加している。増加

率の高いのは北相馬郡8.9%,筑波郡4.9%,取手市4.6%,稲敷郡4.2%の順となり,減少は久慈郡1.3%,笠間市0.5%,那珂湊市0.3%,常陸太田市0.3%となっている。

増加の主な理由としては,首都通勤圏としてのベッドタウン化に伴う常磐線沿線の市部,郡部への人口流入等が人口増加の大きな理由と考えられる。(表一)

人口10万以上の市部の人口増加率をみると,水戸市は1.3%で前年(1.8%)に比べ0.5ポイント低下したが,日立市は0.1%(前年0.0%),土浦市は1.6%(前年1.5%)と

図一 昭和40, 55年地域別人口分布



表一三 市郡別人口の推移

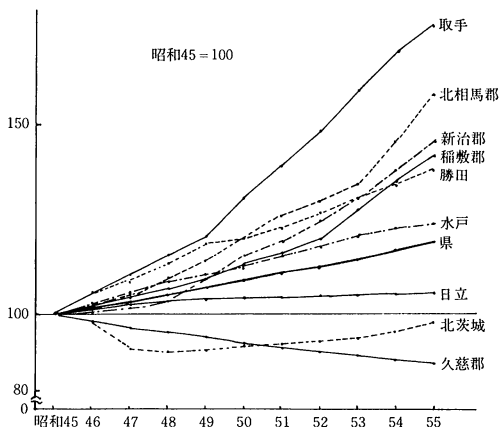
区 分	51	52	53	54	55	
県	人口(人)	2,387,470	2,425,327	2,472,359	2,520,740	2,566,077
	増加率(%)	1.5	1.6	1.9	2.0	1.8
市部	人口(人)	1,180,604	1,198,300	1,217,477	1,234,771	1,249,736
	割合(%)	49.5	49.4	49.2	49.0	48.7
	増加率(%)	1.3	1.5	1.6	1.4	1.2
郡部	人口(人)	1,206,866	1,227,027	1,254,882	1,285,969	1,316,341
	割合(%)	50.5	50.6	50.8	51.0	51.3
	増加率(%)	1.6	1.6	2.2	2.5	2.1

※ 各年12月末日現在推計人口

表一四 首都通勤圏にかかわる常磐線沿線市郡部の人口増加数 (単位:人,%)

	市	郡	人口増加数	増加率	社会増加数	増加率	
常磐線沿線の市郡	取手市		3,213	4.6	2,419	3.5	
	竜ヶ崎市		346	0.8	111	0.3	
	土浦市		1,785	1.6	766	0.7	
	北相馬郡	郡計		4,871	8.9	4,440	8.1
		藤代町		1,524	6.0	1,351	5.4
		守谷町		662	3.9	530	3.1
		利根町		2,685	21.4	2,559	20.4
	稲敷郡	郡計		6,464	4.2	5,368	3.5
		牛久町	うちまな町村	3,313	8.8	2,963	7.9
		阿見町		721	2.2	478	1.5
		碓氷村		2,098	13.7	1,926	12.6
		計		16,679	3.9	13,104	3.0
	その他の市郡			26,190	12.5	10,599	5.1
	県全体			42,869	1.7	23,703	0.9

図一六 主な市郡別人口指数



前年よりわづかながら伸びている。

市郡別の人口動態をみると、市部の自然増67.9%(前年69.6%), 社会増32.1%(前年30.4%), 郡部の自然増31.5%(前年30.4%), 社会増68.5%(前年69.6%)の割合で市部では自然増加が、郡部では社会増加が高くなっている。

なお外国人は市部で4人減少、郡部で194人増加となっている。

エ 男女別人口 ～女100人に
対し99.9人～

昭和56年1月1日現在の本県人口2,566,077人を男女別にみると、男1,276,311人、女1,289,766人となって、女の方が男より13,455人多く、性比は99.0となる。これは前年(98.9)をさらに上回って全国平均の96.9より2.1ポイント高く全国第6位である。

男の数が女を上回るのは4市19町で、桜村の129.7が最も性比が高く、次いで鹿島町111.6、小川町110.3、総和町107.6、谷田部町107.4の順となっており、筑波研究学園都市、鹿島臨海工業

地帯、自衛隊基地等の市町村に比較的多く、一方性比が低いのは14市55町村で、瓜連町の88.6、桂村92.9、常陸太田市92.9、大洗町93.0、里美村93.3である。

昭和55年中の男女別動態をみると、社会動態においては、転入(男70,944人、女63,081人)、転出(男58,491人、女51,831人)ともにその割合は男53.0%、女47.0%となって、男の移動数が女を上回っている。また、自然動態では、出生(男18,286人、女17,426人)で、男51.3%、死亡(男9,014人、女7,722人)で男53.9%といづれも男の割合が女より多くなっている。

2. 世帯^(注)

(1) 世帯数の推移 ～1世帯当り人員は年々減少～

昭和56年1月1日現在の世帯数は695,010世帯であり、10年前の昭和45年(490,120世帯)に比べ204,890世帯、29.5%増加している。この10年間の本県人口の増加率は18.4%であるから、世帯の伸びは人口の伸びを相当上回っている。

表一五 市、郡別性比

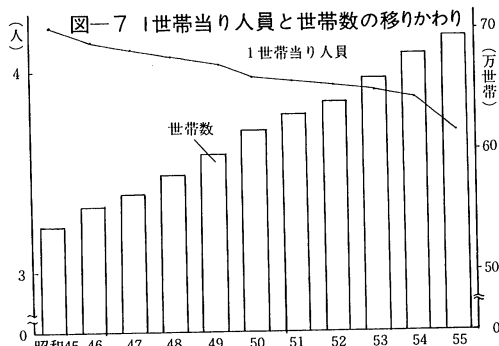
年次	51	52	53	54	55
市、郡					
県	98.3	98.5	98.8	98.9	99.0
市 部	97.5	97.6	97.7	97.8	97.9
郡 部	99.1	99.5	99.8	100.1	99.9

※ 各年12月末日現在推計人口

表一六 市町村別人口の性比

性 比	市町村数	市	町	村	名				
110以上	3	桜井 (129.7)	鹿島 (111.6)	小川 (110.3)					
100.0~109.9	20	総和 (107.6)	谷田部 (107.4)	千代田 (106.2)	神栖 (105.5)	東海 (104.6)	美浦 (104.3)	大穂 (103.4)	波崎 (103.1)
		勝田 (102.9)	守谷 (101.9)	基崎 (101.7)	七会 (101.5)	阿見 (101.2)	日立 (101.2)	猿島 (100.9)	
		五霞 (100.5)	竜ヶ崎 (100.4)	内原 (100.2)	岩井 (100.0)	取手 (100.0)			
98.0~99.9	13	大野 (99.7)	牛久 (99.7)	三和 (99.2)	伊奈 (99.2)	北浦 (99.2)	境 (98.8)	茨城 (98.6)	
		大洋 (98.6)	土浦 (98.2)	関城 (98.2)	石下 (98.2)	八千代 (98.1)	利根 (98.0)		
96.0~97.9	31	河内 (97.9)	麻生 (97.9)	大和 (97.8)	江戸崎 (97.8)	美野里 (97.8)	八郷 (97.8)	玉里 (97.7)	
		新治 (97.6)	岩間 (97.6)	旭 (97.6)	谷和原 (97.5)	古河 (97.4)	藤代 (97.3)	千代川 (97.2)	
		水海道 (97.2)	結城 (97.2)	玉造 (97.2)	那珂 (97.1)	友部 (97.0)	豊里 (97.0)	明野 (97.0)	
		協和 (96.9)	下館 (96.9)	銚田 (96.8)	下妻 (96.6)	高萩 (96.6)	出島 (96.5)	真壁 (96.3)	
		山方 (96.2)	東 (96.1)	常北 (96.0)					
94.0~95.9	18	石岡 (95.7)	美和 (95.6)	牛堀 (95.5)	岩瀬 (95.5)	潮来 (95.5)	北茨城 (95.5)	十王 (95.5)	
		緒川 (95.3)	新利根 (95.2)	御前山 (95.2)	水戸 (95.2)	金砂郷 (95.1)	常澄 (95.1)	大子 (95.1)	
		筑波 (94.9)	笠間 (94.8)	那珂湊 (94.4)	水府 (94.0)				
92.0~93.9	6	桜川 (93.9)	大宮 (93.4)	里美 (93.3)	大洗 (93.0)	常陸太田 (92.9)	桂 (92.9)		
91.9以下	1	瓜連 (88.6)							

※ 女100人に対する男の比



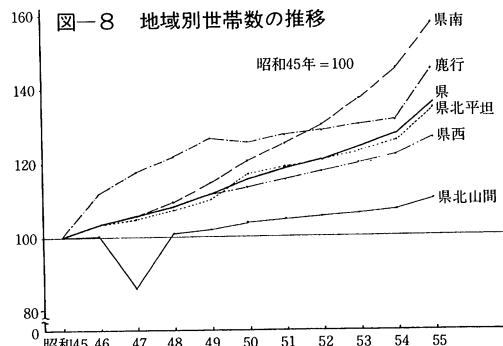
また1世帯当り人員の推移では、昭和45年は4人台であったが、51年にはじめて3.95人と3人台に減り以降わづかではあるが減少傾向をたどり、本年は3.69人となっている。

(2) 昭和55年の世帯数 ~ 1世帯当り人員3.69人~

昭和56年1月1日現在の世帯数は695,010世帯で前年(679,531世帯)に比べ15,479世帯(増加率2.3%)増加した。これは前年の増加数18,682世帯より3,203世帯減少となっている。

世帯数を地域別にみると、県北平坦228,006世帯(構成比32.8%)、県南196,110世帯(28.2%)、県西127,456世帯(18.3%)、県北山間80,752世帯(11.6%)鹿行62,686世帯(9.0%)の順となっている。これを前年比でみると、県南9,111世帯(5.0%)、県北平坦3,692世帯(1.7%)、鹿行1,302世帯(2.3%)、県西2,073世帯(1.7%)、県北山間804世帯(1.0%)とそれぞれ増加している。

なお1世帯当りの人員では県平均で3.69人となり、県西(4.08人)、鹿行(3.81人)、県北山間(3.77人)と県平均を上回っているが、県北平坦(3.41人)、県南(3.68人)は県平均を下回っている。



(注) 会社、官公庁等の独身寮に住んでいる人については、前回(50年国勢調査)は棟ごとにまとめて一つの世帯としていたが、今回は一人一人をそれぞれ一つの世帯として調査した。昭和45年、50年の世帯数は55年の定義に基づいて組み替えてある。(統計課・人口労働統計グループ)